

農福連携普及へ一歩

名張市のNPO法人あぐりの杜は一日から、障害者が就労訓練のために働く農園に新しいトイレを作るため、インターネットを通じて資金調達に乗り出した。広くて使いやすく、冬場でも水が凍らないよう管に電熱線を通じた理想のトイレ建設に必要な資金は二百万円。事務局長の井上早織さん(49)は、担い手不足の農業を障害者の働く場として生かす「農福連携」の普及に欠かせない一大事業と位置付ける。その思いを尋ねた。

―なぜトイレ。
農業で「トイレが大切」と言っても、ピンとこない人の方が多いと思います。でも当事者にとっては切実な問題で。私たちの仲間には、障害のために便意を感じてから排せつまでの時間が短かったり、薬の影響でトイレが近かったりする人がいます。用を足したいと思った時、すぐに入れるトイレがないことは健常者が考える以上に苦痛なんです。

―仮設トイレは。限界があります。私たちの農園には、もともと地権者の方が置いていた和式トイレがあったんですが、譲り受けたり無償で借りられ

―課題解決のための手段にクラウドファンディングを選びました。この方法が一番、現状を多くの人に知ってもらえると思ったからです。一度、私たちのページにアクセスしてみてください。写真や言葉で利用者自らが関わって

たりにて男女別に見えるよ。古品のために劣化も著しく三つに増やしました。で、夏は汚水タンクを密閉して狭く、脚が不自由な人のし、冬は水が凍結して流せのために和式便器に洋式便座ないこともあります。「農を取り付けると、今度は「福連携」には、これまで顧みられなかった設備の充実をしなければならぬ。中が欠かせないんです。

農園に新トイレ建設目指す 井上 早織さん(49)



ネット活用して資金調達

クラウドファンディング「群衆(crowd)」や「資金調達(funding)」を組み合わせた造語。日本では2011年から広まり、インターネット上に複数の運営会社がある。市民団体や起業家がアイデアの企画をネット上の仲

介サイトに掲載。共感した不特定多数の人から小口資金を集める。出資者には支援金額に応じて特典があり、目標額に達すればサイト運営者に10〜20%の手数料を支払う。達しなければ支援金は出資者に返金される。

成感はずっとこれから一人一人が生きていく上で大きな自信になると思います。―トイレが変われば社会が変わるかもしれない。

トイレは一例に過ぎませんが、健常者が気付かなかった問題を一つ一つ解決していくことは、誰もが生きやすい社会をつくるための近道だと思います。私たちの挑戦は、そんな社会の実現に向かう一歩なんです。

◇寄付の仕方
仲介サイト「Readyfor(レディフォー)」の特設ページで五千〜十万円の中から寄付額を選ぶ。「Readyfor あぐりの杜」で検索。パソコンやスマートフォンでの操作に不慣れな人の直接寄付も受け付けている。●あぐりの杜＝0595(44)67899

いのうえ・さおり 1968年愛媛県新居浜市生まれ。大阪市で主婦をしていたころに名張市で自然農法を体験し、農業の奥深さに目覚める。名張市内に移住し、2011年9月に農業生産法人「アグリ」を設立。13年10月に農業を通じて障害者の就労支援を行うNPO法人あぐりの杜(もり)を立ち上げた。農業と福祉、観光を結び付けた地域おこしの活動が評価され、県が昨年、女性が活躍する社会をテーマに開いた国際フォーラムで、最高賞の「みえモデル賞」に選ばれた。

